

樹木の剪定に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 生垣の刈込みを行う際は、萌芽力が落ちるのを防ぐため、毎年、同じところを刈り込むのがよい。
2. 枝おろしは、徒長枝、立ち枝、逆さ枝など樹形を乱す枝や密生した枝など、さほど太くない枝を間引く剪定である。
3. 落葉樹について、樹枝の骨格をつくるための基本剪定を行う場合は、冬期に行うのがよい。
4. 樹木に対する強剪定は、樹木全体の生長が抑えられ、徒長枝の発生抑制に有効である。
5. 摘心は、樹形維持のために、芽の伸びる方向に注意しながら、伸びすぎた枝の徒長枝が分岐するところで切り縮める作業である。